

質問日	令和2年12月2日(水)			質問方式	分割方式		
質問順位	11	会派名	自由民主党浜松	議席番号	41	氏名	花井 和夫
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 STEAM人材の育成について	<p>AIやIoTなどデジタル技術の発展により社会全体が大きく変革する中、Society5.0に応える人材としてSTEAM人材が注目されている。STEAMとは、科学(Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、アート(Arts)、数学(Mathematics)の5つの頭文字から取ったもので、人間性を重視し論理的思考や課題解決力、創造性などのスキルにより様々な分野でイノベーションを起こし得る未来を担う新しい人材像として捉えられている。国においても文部科学省や経済産業省により施策が進められており、既にアメリカをはじめ国策として取り組む国は多く、日本は周回遅れとも言われている。今年、静岡大学においてSTEAM教育研究所が設置され包括的な推進に向けて取り組んでいる。学校教育で終わるものではなく社会に出てもSTEAMの視点を生かした人材育成が重要と考える。そこで、以下3点について伺う。</p> <p>(1) 学校教育においてSTEAM教育をどう捉えているか伺う。</p> <p>(2) 本市のものづくり産業を支えるSTEAMの視点を生かした産業人材の育成について伺う。</p> <p>(3) 新しい行政課題への対応や質の高い行政サービスの提供に向けて、STEAMの視点を生かした市職員の人材育成について伺う。</p>						花井教育長 藤野産業部長 金原総務部長
2 これからの公園の在り方について	<p>市の行った公園利用に関するアンケートを見ると、あまり利用しない・ほとんど利用しない人の割合は70%と高く、使ってもらふ公園にするために活性化や魅力づくりが求められている。公園は様々な機能を持ち、社会課題の解決に向けたプラットフォームになり得ると言われており、市民が主体的に公園づくりに関わるのが大切であると感じる。現在、次期緑の基本計画の策定が進められており、これからの公園の在り方についても検討がなされている。そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 本市の今後の公園の在り方について、現在策定中の緑の基本計画において、どのように位置づけていくのか伺う。</p> <p>(2) 使われる公園づくりを目指し、理念だけでなく官民連携による具体的な取組について伺う。</p>						奥井花みどり 担当部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
3 文化財の活用について	<p>近年、文化財について、その価値を単に保存するだけでなく郷土への愛着を育み、地域振興や観光など様々な領域や主体と連携し活用していくことが求められている。昨年、改正・施行された文化財保護法では、文化財をまちづくりの核として地域総がかりで継承に取り組むことが必要とされ、地域における文化財の計画的な保存・活用の促進などを求めた。併せて市町村には総合的かつ実効性のある「文化財保存活用地域計画」の策定が求められ、本市でも今年度中の策定を目指している。</p> <p>また、今年に入り、政府は地域の祭りや郷土料理などを無形の登録文化財として保護対象に加える方針を示した。本市には多くの文化財があり、特に民俗芸能をはじめとして食文化など様々な無形文化財の宝庫であり、その保存・活用に取り組むことは大変重要と考える。そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 浜松市文化財保存活用地域計画が目指すものについて伺う。</p> <p>(2) 民俗芸能や郷土料理など地域に根差した文化資源の活用について伺う。</p>	中村文化振興 担当部長
4 三方ヶ原の戦い 450年について	<p>2年後の令和4年は、徳川家康公と武田信玄公が激突した三方ヶ原の戦いから450年に当たる。徳川軍と武田軍との城をめぐる攻防でもあり、家康公の生涯最大の負け戦と言われている。市内に残る120を超える城跡の評価を進めるとともに、この戦いの教訓を生かし天下を取った家康公の歴史的考察や魅力をさらに掘り起こし、地域の活性化や発展につなげる絶好の機会である。そこで、以下3点について伺う。</p> <p>(1) 三方ヶ原の戦いについて、歴史的考察を深めるとともに文化財の活用を進めていく考えについて伺う。</p> <p>(2) 徳川軍と武田軍の城をめぐる攻防など、その歴史情報を450年事業にどう活用していくのか伺う。</p> <p>(3) 三方ヶ原の戦いにまつわる歴史資源を観光にどうつなげていくのか伺う。</p>	中村文化振興 担当部長 " 石坂観光・ブ ランド振興担 当部長
5 観光危機管理について	<p>近年、全国各地で地震や風水害等の大規模自然災害が発生しており、本市を訪れる外国人を含む観光客の安全確保とともに、安心して観光できるよう危機管理対策は重要であり関心が高まっている。平時からの取組も含め、災害発生時の行政と観光事業者の役割や連携、観光客の行動指針等の危機管理対策を事前に決めておくことで安全・安心で快適な観光地域づくりにつながる。そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 観光危機管理についての考えを伺う。</p> <p>(2) 危機管理の具体的な取組について伺う。</p>	石坂観光・ブ ランド振興担 当部長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>6 高齢者のデジタルディバイド解消について</p>	<p>I C T技術の進展により生活が一段と便利になる中、使いこなす人と取り残される人との間には格差が生じている。特に高齢者にとってI C T利用ができる、できないにより生活の質に格差ができ、孤立化にもつながる。携帯電話の3 G通信の終了が2020年代半ばに迫っており、マイナンバーカード機能のスマホ搭載が2022年に向け検討されている。国においてもデジタルディバイドの解消に向けて、誰もがI C Tによる利便性を享受できる環境整備の取組を行っている。そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 高齢者のデジタルディバイドについてどう捉えているか伺う。</p> <p>(2) 解消に向けた具体的な取組について伺う。</p>	<p>朝月デジタル・スマートシティ推進事業本部長</p>
<p>7 県立浜松湖北高校佐久間分校について</p>	<p>県立浜松湖北高校佐久間分校は地域にとってかけがえのない教育機関であり、存続に向けて行政と地域が連携し、分校の魅力づくりや就学環境の充実に努力している。存廃は地元中学生の進路に大きく影響するだけでなく、地域の衰退につながる重要課題となっており、本市の関わりがより一層大事となっている。そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) これまでの存続に向けた取組について伺う。</p> <p>(2) 本市として佐久間分校の位置づけをどのように捉えているのか考えを伺う。</p>	<p>花井教育長</p>
<p>8 浜松環状線の整備と鉄道高架化について</p>	<p>主要地方道浜松環状線は、高速道路インターチェンジ間や放射道路を結ぶ交通の円滑化に大きな役割を果たすストック効果の高い道路であり、4車線化の道路整備と遠州鉄道鉄道線との交差部では高架化の検討が進められている。また、災害発生時には緊急輸送路としての役割を持つ重要道路でもある。未整備区間約2キロメートルのうち、中郡工区510メートル区間が今年度の事業完了の予定で工事が進められており、都市計画道路浜北馬郡線までの区間を残すのみとなっている。そこで、浜松環状線の整備状況と今後の取組について、遠州鉄道鉄道線の高架化も含めて伺う。</p>	<p>高須土木部長</p>